地域へ開かれた居場所づくりを

地域子ども教室推進事業が始まったことによって、居場所づくりが極めて広い範囲で行われるようになっている。

そのようななかで、居場所のはたらきを意味のあるものにするために、確認しておかなければならないことがある。

親切心からなのか、大人たちは、魅力的なメニューがないと子どもたちがやって来ないと思い込んでいるのではないだろうか。しかし、子どもたちの活動を無理に方向づけるようなやり方は避けた方がよい。これが、第一に確認しておきたいことだ。

そもそも、そんなことをやれば、大人が息切れをするに決まっている。それに加えて、大人のお節介が、従来の青少年育成活動と同じように、年長の子どもたちに敬遠されるおそれが大きい。

大人は落ち着いていればよいのだ。子どもに居心地の良いところを用意すれば、そこへやって来た子どもたちのあいだから、いろいろな活動の希望が出されるようになる。それに対して、一つひとつ親切に応えて、条件を整えれば、子どもは積極的に活動するようになる。このことは、渋谷ファンイン[*2]のように、すでに居場所づくりをすすめているところで証明されている。

第二に確認しておきたいのは、個々の居場所を完結したものとみないで、複数の居場所を結んで、子どもたちが“回遊”する仕組みの工夫が必要だということだ。居場所に子どもたちを閉じ込めるべきではない。例えば、あそびと駄菓子屋たかさんち[*3]にやって来る子どもたちは、近くの小学校や児童館も利用しているという。そのようにして子どもは自力でネットワークをつくっているわけだ。

さて、居場所とは、空に浮かぶ雲のようなものではない。ある地域のなかに、その地域で暮らす子どもと大人の手によってつくられるものだ。そこには、土台としての地域社会があり、地域活動を担う人々がいる。そうであるとすれば、居場所づくりにかかわる人々は、地域社会を、どういうところにしようとするのか、あるいはまた、自分たちがどんな暮らしを望むのかという課題を考えないわけにはいかない。これが、確認しておきたいことの第三点目だ。

考えてみると、大人が将来の地域の構想をもち、また、自分たちの暮らしの将来像を思い描いて、着実な活動をするところでは、わざわざ子どものための居場所づくりを考えるまでもなく、子どもたちが安心して過ごすことができ、大人になる準備をするための条件が整えられているはずだ。じっさい、子どもも大人も一緒に集う、地域の居場所と呼べるようなところが全国各地に生まれている。個人住宅を開放するクニハウス[*4]や、新潟県内を中心に500か所を数えるという地域の茶の間を例示しておきたい。

*2：渋谷ファンイン（P15参照）

*3：あそびと駄菓子屋たかさんち（P21参照）

*4：クニハウス
〒464-0073
名古屋市千種区高見一丁目8-23
Tel. 052-761-5234（Fax同）
http://www.nui.or.jp/dantai/kunih.htm

居場所をこのように考えると、大人は、青少年育成者の立場で子どもの世話を焼くだけでなく、職業人（あるいは生活者）の顔で、子どもたちと向き合うことが必要となる。

そして、そういう大人にとっては、子どもの将来の生業（なりわい）を視野に入れた、広義の就労支援が不可避の課題となるだろう。これが、最後にもうひとつ確認しておきたいことだ。

数年間にわたって居場所事業を続けてきた、京都市南青少年活動センター*5で行なわれる「探偵ひとスクープ」（旧事業名「よのなかを見に行こう」）という、職業人の話を聞くこのプログラムは、そういった意味でとりわけ注目される。

また、渋谷ファンインのひとつ、恵比寿ファンインは、ＩＴ関連企業のオフィスに開設されており、その点からみて就労支援の意味のあることも指摘されている。

就労支援は最近注目を集めるようになった課題だが、すでにいろいろな事例が生まれている。そのうちの幾つかを例示しておく。

特定非営利活動法人のアンガージュマン・よこすか*6は、横須賀市上町にある商店街の空き店舗を利用して、不登校やひきこもりの支援施設を運営している。ここでは、オープン当初から支援を受けている上町商店街振興組合の協力を得て、若者の社会参加をすすめるために、買い物代行や家事手伝いのサービスを始めた。

特定非営利活動法人の子育て長屋船橋*7は、管理受託をした８階建ての高齢者向けマンションに保育園を開設して、地域住民や居住者の世代間交流をすすめると共に、ひきこもりを経験した若者たちをスタッフに加えて社会参加の機会を提供している。

*5：京都市南青少年活動センター（P10参照）

*6：アンガージュマン・よこすか
〒238-0017　横須賀市上町2-4
Tel. 046-801-7881
http://engagement.angelicsmile.com/

*7：NPO法人 子育て長屋船橋
〒273-0003　千葉県船橋市宮本町2-8-5
アドサム船橋壱番館1F
Tel. 047-460-4370

青森市新町商店街振興組合[*8]では、市民グループと連携して子どもと親のために活動プログラムを提供したり、若者のためにバンドやストリートダンスの発表の機会をつくったり、障害のある若者に働く機会を提供したりしている。ここは、障害のある人や高齢者も快適に買い物ができる福祉対応の商店街を標榜して、ハードとソフトを整えており、新しい暮らし方を提案する商店街といえるところだ。コミュニティビジネスの王道をすすんでいると形容できるのではないか。まちなかでバンドやダンスを楽しむ若者たちの姿をみると、商店街の全体を居場所と呼べるかもしれない。

最後に、ヤングジョブスポットよこはま[*9]を紹介しておきたい。ここは、「ロビータイプ」のフリースペースを基本とした、15歳から30歳未満までの青少年のための就労支援の施設である。若い世代の就労支援への関心から、居場所づくりをすすめる事例といえるだろう。「ロビータイプ」の空間をベースとして、そこへ訪れて集う若者たちに「職業人の話を聞こう！語りあおう！」「職場に出かけて見学？体験！」「職業セミナー（履歴書の書き方、面接指導）」「PC講習会」などのプログラムを提供している。

子どもの居場所づくりは、住民の暮らす地域へと拡がり、また、子どもたちの未来へとつながるような潜在的な可能性を秘めている。

＊8：青森市新町商店街振興組合
〒030-0801
青森市新町2-6-27　成田園ビル2F
Tel. 017-775-4134
http://www.jomon.ne.jp/~sinmati1/

＊9：ヤングジョブスポットよこはま
〒220-0004　横浜市西区北幸町2-1-22
Tel. 045-317-2009
http://www.ehdo.go.jp/kanagawa/young_job.html

久田　邦明（評論家）

神奈川大学、東京学芸大学講師。神奈川県青少年問題協議会委員。
社団法人神奈川県青少年協会理事。葛飾区社会教育委員。
編著書『子どもと若者の居場所』（萌文社）他。